

はしど



平成30年 9月28日
学校だより 第6号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊哉
<http://www.hashido-e.nerima-tyky.ed.jp/>

☆学校教育目標 考える子・思いやりのある子・たくましい子

チャレンジすること よく見ること

校長 青木 俊 哉

9月20日、オリンピック・パラリンピック教育の一環として、元体操選手の信田美帆さんにご来校頂き、全校の児童が指導を受けました。低学年は「**マット遊び**」、中・高学年は「**跳び箱運動**」の基礎・基本を、学年に合わせて教えて頂きました。わずか45分の出会いではありましたが、“頂点を極めた”オリンピックの指導や声かけに、一人一人が改めて体を動かすことの心地よさやできる喜びを実感できたように思います。

信田さんは、中学2年の時に「**全日本体操選手権**」に優勝(当時の最年少記録)、翌年連覇を果たし、その後**ソウルオリンピック**に出場しています。この日たまたま職場体験にきていた三原台中の2年生4名は、自分たちと同じ中2での日本一と聞き、子供たち以上に驚いていたようでした。また、信田さんがオリンピックを意識し、本格的に選手コースで体操を始めたのが小4と伝わると、4年生の驚きはより大きなものとなりました。

表題にした「**チャレンジすること よく見ること**」は、この日の指導の際に、信田さんが全学年に共通して使われていた言葉です。

「できないことに尻込みせず、まずはやってみよう。」という“**チャレンジ**”と、

「自分の演技以外の時間、友達のやるところをよく見よう。」「**見ることこそ、うまくなるために最も大切な要素。**」の言葉に、子供たちも大きくうなずき、頑張る姿につながっていきました。

実はこの前日、校内研究(研究授業)がありました。授業者は小池ゆり先生、1年1組の算数の授業です。研究授業は、まさに授業者や子供たちにとっての「**チャレンジ**」です。大勢の先生方に授業を見て頂く機会は、それほどたくさんある訳ではありません。学校の世界では、“**研究授業は、授業者が最も得をする**”と言いますが、**TRY**することで、自分ではなかなか気づけない自分の指導のあり方を客観的に捉えることができ、確実に指導力は向上します。校内研究ですから、授業者ばかりに“**得**”させる訳にはいきません。「よく見ること=見て学ぶこと」、参観者つまり全ての先生方が、自分のねらいをもって授業を参観し、主体的に協議に臨むことで、力をつけ、自分自身の授業改善につなげることで、学校全体の指導力が伸びるのです。

子供たちにとって“**見て学ぶ**”“**見ることを通して学び合う**”**場や機会**は、体育に限らず、日々の学習の中にたくさんあります。まさに、学校で、集団で学ぶ意義とも言えます。友達のやっている姿を見る、できた作品やノートを見る、話し手を見る、見たことから何かを学び自分に取り入れる、自分なりの感想や考えをもつ、自分の学びに生かす…、こういったやりとりの連続から、これからの時代を生き抜くために必要な“**主体的な学び**”の力が身につくものと考えています。

今月の土曜公開では、ぜひこんな“**子供たちの学び合う姿**”を意識して、ご参観頂けると幸いです。(来月は橋戸縁日、12月は展覧会を予定していますので…。)